

# 第1学年〇組 音楽科学習指導案

指導者 福岡市立〇〇中学校  
教諭 〇〇 〇〇

- 1 題材 「簡単な創作にチャレンジしよう」  
教材 「からたちの花」山田耕筰 作曲

## 2 指導観

○ 現代社会では高度経済成長と共に急速な情報化が進み、パソコンや携帯電話などの情報機器に触れる機会が多くなってきている。そのため、子どもたちが自ら考える、感じるといった行動が少なくなってきているように思う。このような現状の中で、音楽科教育が担う役割は大変重要であると考え。中でも創作活動は生徒が自ら考え、つくり、表現するといった要素が盛り込まれた大変魅力的な学習である。

新学習指導要領（平成24年より完全実施）には改訂の要点として、創作の指導内容の焦点化・明確化が挙げられており、事項アでは「言葉や音階などの特徴を手掛かりにして旋律をつくること。」と明記されている。創作活動をよりとらえやすくすることによって、子どもたちの自由な発想をしっかりと引き出すことが重要である。

本題材では、日常的な言葉を素材にすることによって、創作をより身近に親しませることをねらいとしている。その際、言葉の中にある音高やリズムを感じ取らせる。そして、短い文の音高やリズムを声に出したりリコーダーで音にしたりしながら、グループでリコーダーを使って創作活動をおこなう。音符やリズムを限定し、具体的な例を提示すること、普段授業で使用しているアルトリコーダーを使うことなどによって、言葉の中にあるリズムや音高がとらえやすくなると考える。

第1学年の生徒は、中学校で初めての創作活動に取り組む。発達段階からも、比較的素直に表現活動に取り組むことのできるこの時期に、本題材を設定することは大変意義がある。ここでの学習が、第2・3学年の創作的活動に結び付くように十分親しませておきたい。

○ 1年4組は、男子20名女子17名のクラスである。授業での表現活動に積極的で、楽しんで表現しようとする雰囲気がある。学校行事などでの団結力も素晴らしく体育大会でも仲間と協力し熱心に取り組む姿が見られた。本校区である〇〇・〇〇小学校は音楽活動が非常に盛んであり、合唱や器楽、ミュージカルなどにも取り組んでいる。そのため、入学当初から子どもたちの音楽に対する意識は非常に高い。一方で、音符や音階など楽譜に関することを苦手としている子どもが多く、創作的活動にもあまりなじみがない。今回はまず、身近な言葉を取り上げて音域やリズムパターンを設定することによりイメージをつかませ、創作活動の導入にしたい。最初はクイズ形式の発問を工夫し、言葉を自由に感じさせることによって音楽に親しんでいく態度を身に付けさせたい。

○ 指導にあたっては、まず、教師が単語をアルトリコーダーで音にして演奏し、クイズ形式で答えを自由に発表させることによって意欲をもたせたい。次に、生徒が言葉の音高を感じ取りやすくするために、実際に声に出して言葉を発音しイントネーションの特徴をとらえさせる。実際にリズムや音高を教師が当てはめて例示してみせることによって、創作の手順や方法を理解させる。1次では最初のクイズで出題した言葉に関連させた短い文を各グループで実際に声に出したり、アルトリコーダーで演奏したりしながら音高やリズムをつかませたい。2次では各グループに詩をあたえて、グループで話し合いながら工夫して創作をおこなわせたい。グループ活動をすることにより、個人の苦手な部分をみんなでフォローしながら取り組むことができる。コミュニケーションを図りながら意見交換を重ねることで、創作活動の充実につながっていくと考える。

## 3 目標分類表

内容 \ 観点	関心・意欲・態度	感受・表現の工夫	表現の技能
○言葉の特徴をとらえる。	○創作に関心をもち、言葉の特徴を感じ取っている。		
○創作に親しむ。	○主体的に表現し、親しんでいる。	○言葉の音高やリズムを感じながら表現しようとしている。	

4 計画(2時間)

配時	学習活動・内容	留意点	観点：評価規準 ＜評価の方法＞
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">本時 1 ／ 2</p>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     簡単な創作にチャレンジしよう                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     言葉の音高やリズムを感じ取る。                      「トマト」「カレー」「あおいそら」                      「コスモス」「たまご」                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     グループで短文に音をつける創作をする。                      「あかいたまおいしいよ」                      「たまごがのどにつまったよ」                      「カレーはとってもちがよいよ」                      (1) 言葉を声にだして音高やリズムを感じ取る。                      (2) ホワイトボードを利用して提示された音符・音域を使って記譜する。                      (3) 創作した楽譜をワークシートに記入しリコーダーで練習する。                      (4) 創作したものをアルトリコーダーを使用して発表する。                      (5) 各グループの評価をし、今日の授業の感想を記入する。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音高やリズムが異なる身近な単語を素材にする。</li> <li>○生徒がわかりやすいように大きな単語カードを作成し黒板に掲示する。</li> <li>○特徴をとらえやすいよう、教師が演奏しクイズ形式で発問する。</li> <li>○正解を発表し言葉の音高を確認させる。</li> <li>○黒板に拡大楽譜を貼り生徒が理解しやすいように配慮し指導する。</li> <li>○創作活動の手順や例を提示してスムーズに活動に入れるようにする。</li> <li>○言葉を3つ提示してその中から一つ選択させる。</li> <li>○音符は四分音符、八分音符のみ、音域はアルトリコーダーで既習のド～ラで設定する。</li> <li>○選択した言葉をグループで声にだしながら音高やリズムを感じ取らせる。</li> <li>○言葉に合ったリズムを選択させて、音をつけさせる。</li> <li>○グループごとのホワイトボード及び黒板を利用し、みんなで協力して創作できるように指導する。</li> <li>○発表の後に必ず評価を入れ、他の班の生徒からの感想や意見を求める。</li> </ul>	<p>関感：創作に関心を持ち、ことばの音高やリズムを感じ取っている。                      ＜様相チェック・ワークシート分析＞</p>
<p style="text-align: center;">2</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     グループで「からたちの花」の歌詞に創作する。                      (1) グループで意見交換しながら、創作する。                      (2) アルトリコーダーを使って音を確認しながら検討していく。                 </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">                     グループ発表                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習のまとめ                      (1) 他のグループの演奏を評価する。                      (2) 「からたちの花」を聴いて、言葉の音高やリズムと音楽のかかわりを感じ取る。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートで前時を振り返りながら、学習内容の確認をおこなう。</li> <li>○班の隊形にして、お互いの顔を見ながら意見を出し合えるようにする。</li> <li>○相互評価をさせて、一人一人の工夫を意識して創作することができるようにする</li> <li>○黒板にマグネットで音符を並べ、全体で楽譜を見ながら発表を聴けるようにする。</li> <li>○他のグループの演奏を評価させる。</li> <li>○作曲者が言葉の音高にあわせて作曲した「からたちの花」を聴いて、学習内容を実感させる。</li> <li>○演奏終了後、各班で反省・評価を行うとともに相互評価させる。</li> <li>○今回の学習が、今後の学習にどうつながるのかを示唆する。</li> </ul>	<p>感表：言葉の特徴を感じながら創作しリコーダーで表現しようとしている。                      ＜表現チェック・様相チェック＞</p> <p>関：主体的に表現し、親しんでいる。                      ＜様相チェック・ワークシート分析＞</p>

(1) 本時の指導観

本時は、音から言葉を連想させ、言葉の音高やリズムを感じ取らせることによって、創作活動を身近に感じるということを大切にしたい。

まず、日常的に使っている短い単語を例に、言葉の中に音高やリズムがあることに気付くことができるようにする。次に、生徒が選択した言葉にリコーダーを使いながら実際に音をつけて音高やリズムを考えさせる。この時、実際に言葉を声に出して音高やリズムを感じ取らせるとともに、リズムパターンや使用する音域などを、拡大楽譜を使用して具体的に生徒に提示する。その後グループに分かれて、短い文章の創作活動をさせる。最後に、本時の学習を振り返らせて、生徒のワークシートへの記入から新たに気付いたことや疑問を引き出し、次時への意欲をもたせたい。

(2) 主眼 ○ 創作に関心を持ち、言葉の音高やリズムを感じ取ることができる。

(3) 準備 ①ワークシート ②単語カード ③音符カード ④ホワイトボード ⑤拡大楽譜 ⑥リコーダー

(4) 過程

学習活動・内容	○指導の手だてや留意点 ◆評価 <評価の方法>						
<p>1 言葉に音高やリズムがあることに気付く。</p> <p>(1) 教師の5種類の演奏を聴き、音高やリズムなどの特徴や違いを感じ取る。 「トマト」「カレー」「あおいそら」「コスモス」「たまご」</p> <p>(2) 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">言葉を大事にして音をつくらう！</div> <p>2 短文に音をつける創作をする。</p> <p>(1) 全体で音符やアルトリコーダーの運指の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム、音符</li> <li>・ド～ラまでの運指</li> </ul> <p>(2) 全員で3つの短文を声に出して読み、音高を確認する。 「あかいトマトおいしいよ」 「たまごがのどにつまったよ」 「カレーはとってもからいよ」</p> <p>(3) グループに分かれて1文を選択し創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにホワイトボードを利用して楽譜を作成</li> <li>・個人でワークシートに記入</li> <li>・リコーダーで音の確認</li> </ul> <p>(4) グループで創作したものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した楽譜</li> <li>・アルトリコーダー演奏</li> </ul> <p>(5) 各グループの演奏や発想を評価する。</p> <p>5 本時学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・次時への見通し</li> </ul>	<p>○音高やリズムが異なる3～5文字程度の身近な単語を使用する。</p> <p>○教師がアルトリコーダーで特徴をとらえやすいよう演奏する。</p> <p>○生徒がわかりやすいように大きな単語カードを作成し黒板に掲示する。</p> <p>○楽しい雰囲気です授業に入っていけるようクイズ形式で発問する。</p> <p>○黒板に拡大楽譜を貼り、共通理解しやすい環境を整える。</p> <p>○使用する音符は四分音符、八分音符に限定する。</p> <p>○リズムパターンを明確にして、生徒がリズムをつくりやすいように配慮する。</p> <p>○アルトリコーダーの音域は、既習のド～ラで設定する。</p> <p>○リズムや音符の例を具体的に示しながら説明する。 例「おいしいカレーがたべたいなー」</p> <p>○黒板に3つの短文を掲示する。</p> <p>○各グループ、ホワイトボード及び黒板を使いながら創作活動できるように環境を整える。</p> <p>○グループで活動する際にみんなで声に出しながら言葉の音高を確認するよう助言する。</p> <p>○創作が進んでない班には開始音をあたえて進みやすくする。</p> <p>○創作の途中で言葉のリズムを自由に発想できるように例をだして指導をする。例「さむい」「さむーい」</p> <p>◆関感：創作に関心を持ち、言葉のリズムや音高を感じとっている。</p> <p style="text-align: center;">&lt;様相チェック・ワークシート分析&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">A</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">○友達と協力し言葉の音高やリズムを感じとって楽譜を書き、熱心に特徴を表現しようとしている。</td> <td style="padding: 5px;">○友達と協力し言葉の音高やリズムを感じとって楽譜を書き、表現しようとしている。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">○Cの生徒への手だて Cの生徒が友達の意見や考えを参考に楽譜を書くことができるよう、グループ全体の活動を支援する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○生徒の記入から、新たに気付いた創作への疑問や考えをもとに次時への意欲をもたせる。</p>	A	B	○友達と協力し言葉の音高やリズムを感じとって楽譜を書き、熱心に特徴を表現しようとしている。	○友達と協力し言葉の音高やリズムを感じとって楽譜を書き、表現しようとしている。	○Cの生徒への手だて Cの生徒が友達の意見や考えを参考に楽譜を書くことができるよう、グループ全体の活動を支援する。	
A	B						
○友達と協力し言葉の音高やリズムを感じとって楽譜を書き、熱心に特徴を表現しようとしている。	○友達と協力し言葉の音高やリズムを感じとって楽譜を書き、表現しようとしている。						
○Cの生徒への手だて Cの生徒が友達の意見や考えを参考に楽譜を書くことができるよう、グループ全体の活動を支援する。							